

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第1区分

【発行日】令和6年12月26日(2024.12.26)

【国際公開番号】WO2023/195441

【出願番号】特願2024-514265(P2024-514265)

【国際特許分類】

C 0 3 C 27/12(2006.01)

B 3 2 B 17/00(2006.01)

B 3 2 B 7/12(2006.01)

B 6 0 J 1/00(2006.01)

【F I】

C 0 3 C 27/12 Z

C 0 3 C 27/12 N

C 0 3 C 27/12 L

B 3 2 B 17/00

B 3 2 B 7/12

B 6 0 J 1/00 H

【手続補正書】

【提出日】令和6年7月29日(2024.7.29)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

第1ガラス板と、第2ガラス板と、前記第1ガラス板および第2ガラス板の間に配置された中間接着層と、前記中間接着層の内部に配置された機能性部材とを有する車両用合わせガラスであって、ISO/PAS 16940:2004に準拠した機械インピーダンス法（中央加振、半値幅法）による20℃での0Hz～10000Hzの一次損失係数 η が0.10以上である車両用合わせガラス。

【請求項2】

ISO/PAS 16940:2004に準拠した機械インピーダンス法（中央加振、半値幅法）による0Hz～10000Hzの一次共振点におけるモジュラスが 6.00×10^{10} Pa以下である、請求項1に記載の車両用合わせガラス。

【請求項3】

ISO/PAS 16940:2004に準拠した機械インピーダンス法（中央加振、半値幅法）による0Hz～10000Hzの一次共振点におけるモジュラスが 3.50×10^{10} Pa以上である、請求項1または2に記載の車両用合わせガラス。

【請求項4】

前記機能性部材は、第1透明基材、第1緩衝層、第2透明基材をこの順に含み、

前記第1緩衝層は、第1透明基材と第2透明基材とを接着する、請求項1または2に記載の車両用合わせガラス。

【請求項5】

前記第1緩衝層の厚さは、0.010mm以上である、請求項4に記載の車両用合わせガラス。

【請求項6】

前記機能性部材は、第3透明基材、第2緩衝層、第4透明基材をこの順に含み、

10

20

30

40

50

前記第 2 緩衝層は、第 3 透明基材と第 4 透明基材とを接着する、請求項 4 に記載の車両用合わせガラス。

【請求項 7】

前記機能性部材は調光フィルムである請求項 1 または 2 に記載の車両用合わせガラス。

【請求項 8】

平面視における前記第 1 ガラス板の周縁から前記機能性部材の周縁までの距離は 50 mm 以下である、請求項 1 または 2 に記載の車両用合わせガラス。

【請求項 9】

前記中間接着層は 1 層又は 2 層構成である、請求項 1 または 2 に記載の車両用合わせガラス。

【請求項 10】

前記中間接着層は 1 層構成である、請求項 1 または 2 に記載の車両用合わせガラス。

【請求項 11】

前記中間接着層は、ISO/PAS 16940:2004 に準拠した機械インピーダンス法（中央加振、半値幅法）による 0 Hz ~ 10000 Hz の一次共振点におけるモジュラスが 6.00×10^{10} Pa 以上である、請求項 1 または 2 に記載の車両用合わせガラス。

【請求項 12】

前記中間接着層は、ポリビニルアセタール系樹脂、ポリ塩化ビニル系樹脂、飽和ポリエステル系樹脂、ポリウレタン系樹脂、エチレン-酢酸ビニル系共重合体樹脂、エチレン-エチルアクリレート共重合体樹脂、シクロオレフィンポリマー樹脂及びアイオノマー樹脂からなる群から選択される少なくとも 1 つの樹脂を含む、請求項 1 または 2 に記載の車両用合わせガラス。

【請求項 13】

前記中間接着層の厚さと前記機能性部材の厚さの和が、1.30 mm 以下である、請求項 1 または 2 に記載の車両用合わせガラス。

【請求項 14】

前記車両用合わせガラスの面密度が 12 kg/m^2 以下である、請求項 1 または 2 に記載の車両用合わせガラス。

10

20

30

40

50